

2021
JANUARY

No.31

鹿児島大学 同窓会連合会報



「源はるか甲突の流れは永遠に水清し」と教育学部同窓会の歌に歌われている甲突池（鹿児島市郡山町）

特別
寄稿

川柳を楽しむ

ポツダムの桜

久保 正和（教育学部同窓会副会長）

伏貫 義十（鹿児島大学理学部同窓会南明会）

鹿児島大学同窓会連合会会則

第1章 総則

(名称)

第1条 本会は、鹿児島大学同窓会連合会と称する。

(目的)

第2条 本会は、鹿児島大学の各学部同窓会（以下「各学部同窓会」という。）の連合組織として、鹿児島大学の基本理念の達成に協力し、その発展に寄与するとともに、会員相互の交流及び親睦を行うことを目的とする。

(事業)

第3条 本会は、前条の目的を達成するために、次に掲げる事業を行う。

- (1) 鹿児島大学との連携及び協力
- (2) 各学部同窓会間の交流及び連携の推進
- (3) その他本会の目的に沿った事業活動

(支部)

第4条 本会に支部を置くことができる。

第2章 会員

(会員)

第5条 本会は、次に掲げる各学部同窓会及び特別会員を持って組織する。

各学部同窓会

- 鹿児島大学法文学部同窓会
- 鹿児島大学教育学部同窓会
- 鹿児島大学理学部同窓会南明会
- 鹿児島大学医学部同窓会
- 鹿児島大学歯学部同窓会
- 鹿児島大学工学部同窓会
- 鹿児島大学農学部あらた同窓会
- 鹿児島大学水産学部同窓会魚水会
- 鹿児島大学共同獣医学部紫友同窓会

特別会員

- 鹿児島七高同窓会

第3章 役員等

(役員)

第6条 本会に次の役員を置く

- (1) 会長 1名
- (2) 副会長 各学部同窓会からそれぞれ1名
- (3) 代表幹事 1名
- (4) 幹事 各学部同窓会及び鹿児島大学からそれぞれ1名
- (5) 評議員 各学部同窓会からそれぞれ4名
- (6) 監事 若干名
- (7) その他会長が認めた者

(役員を選任)

第7条 会長、代表幹事及び監事は、総会において選任する。

(役員の仕事)

- 第8条 会長は本会を代表して会務を総理する。
- 2 副会長は会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代行する。
 - 3 代表幹事は会務の執行を総括し、事務局を統括する。
 - 4 幹事は本会と学部別同窓会との連絡調整を図るとともに、役員会及び幹事会の構成員として、会務の執行上重要な事項を審議する。
 - 5 評議員は総会の構成員として、重要事項を審議する。
 - 6 監事は業務及び会計の執行状況の監査を行う。

(役員任期)

第9条 役員任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、役員に欠員が生じた場合の補欠の役員任期は、前任者の残任期間とする。

(名誉会長及び顧問)

第10条 本会に、名誉会長及び顧問を置くことができる。

- 2 名誉会長及び顧問は、会長が委嘱する。
- 3 名誉会長及び顧問は、総会に出席し、意見を述べることができる。

第4章 会議

(会議)

第11条 本会の会議は、総会、役員会及び幹事会とする。

(総会)

第12条 総会は、第6条各号に掲げる役員をもって組織する。

- 2 総会は、次に掲げる事項を審議、決定する。
 - (1) 役員を選任に関する事項
 - (2) 事業計画及び事業報告に関する事項
 - (3) 予算及び決算に関する事項
 - (4) 会則の改廃に関する事項
 - (5) その他会長が必要と認めた事項
- 3 総会は、毎年度1回、会長が招集し、その議長となる。
- 4 総会は、第1項に規定する役員過半数の出席により成立し、議事は、出席者の過半数をもって決する。ただし、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(役員会)

第13条 役員会は、会長、副会長、代表幹事、幹事及び監事をもって組織する。

- 2 役員会は、次に掲げる事項を審議する。
 - (1) 総会に付議すべき事項
 - (2) 本会の運営における重要な業務の執行に関する事項

(幹事会)

第14条 幹事会は、会長、代表幹事及び幹事をもって組織する。

- 2 幹事会は、総会又は役員会において決定した業務の具体的執行計画等を審議する。

第5章 会計

(経費)

第15条 本会の経費は、学部別同窓会の分担金、寄附金等をもって充てる。

(会計年度)

第16条 本会の会計年度は、4月1日から翌年の3月31日までとする。

(監査)

第17条 会長は、会計年度ごとに決算書を作成し、監事の監査を受けなければならない。

第6章 事務局等

第18条 本会に、その事務を処理するため、事務局を置く。

- 2 事務局は、鹿児島大学総務部総務課内に置く。

(雑則)

第19条 この会則に定めるもののほか、本会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この会則は、平成17年4月7日から施行する。

附 則

この会則は、平成19年4月6日から施行する。

附 則

この会則は、平成30年4月7日から施行する。

附 則

この会則は、平成31年4月6日から施行する。

第31号会報(令和3年1月発行)に寄せて

同窓会連合会 会長 富永 茂人



鹿児島大学9学部9研究科の卒業生および修了生の皆様ご健勝でお過ごしでしょうか？本学の卒業・修了生11万人以上のOB、OGの皆様が、新型コロナウイルス感染拡大による苦境の中、日本全国および全世界でご活躍されていることに対して「鹿児島大学同窓会連合会」会長として心より敬意を表し、またお慶びを申し上げます。

ご存知のように、新型コロナウイルス感染については世界的に未だに終息の見通しが見えない中、皆様も不自由な生活をなさっていることと存じます。鹿児島大学におきましても、例年鹿児島県総合体育センター体育館で挙行されている令和元年度卒業・修了式および令和2年度入学式・式典は規模を縮小して、鹿児島大学事務局4階特別会議室で実施されました(鹿大HP)。昨年度の卒業・修了生、今年度の新入生の皆様とご家族の皆さんにとっては本当に残念なことであったことと存じます。また、在学生の皆様も休校とその後の遠隔授業やサークル活動の制限措置などで不自由な学生生活を送ってこられ、一部対面授業が再開された現在も満足できる学業・研究活動、就職活動が行えていない状況にあるとお聞きしております。

新型コロナウイルス感染拡大のため、「鹿児島大学同窓会連合会」でも例年入学式の週の土曜日に開催してきた「鹿児島大学同窓会連合会総会」および「懇親会(卒業生のつどい)」を中止しました。「役員会」についても、参加者の安全確保の観点から、3月18日を最後に対面の会議を中止し、本来総会で協議・承認すべき「令和2年度の事業計画(案)および予算(案)」については当初「暫定」執行を行い、8月に書面審議でご承認いただきました。この他、各学部同窓会、各支部同窓会活動にも大きな影響を受けております。また、今年から鹿児島大学が開始する予定であった「ホームカミングデイ」も中止となり、同窓会連合会としての連携・協力は次年度以降に持ち越しになりました。なお、2015年から同窓会連合会が協力している「きばいさんせ鹿大生2020」については卒業生が協力して12月5日(土)に遠隔で実施できました。

「新型コロナウイルス」の影響で「新しい生活様式」が推奨される中、同窓会活動においても積極的な活動の継続を模索していかなければいけないと考えております。「新型コロナウイルス」の終息後も直ちに以前の生活様式に戻ることは困難だろうと思っておりますが、それでもいつの日か同窓生の皆様が平常の生活に戻り、お元気にお過ごしいただける日が来ることを願っています。今後とも同窓会活動および母校鹿児島大学への連携・支援をお願い申し上げます。

目 次

第31号の会報発行(令和3年1月発行)に寄せて	1
学長挨拶	2
鹿児島大学の近況	3
各学部同窓会活動報告	10
特別寄稿(教育学部、理学部)	19

学 長 挨拶

鹿児島大学長 佐野 輝



鹿児島大学同窓会連合会の皆様方、新年あけましておめでとうございます。コロナ禍の中、お元気でお過ごしでしょうか。日頃より本学の教育・研究並びに大学運営等に関しまして、ご理解とご協力を賜っており、厚くお礼申し上げます。

今回も前回に引き続き、コロナ禍を中心に書かせていただきますと、後期の始まる10月には、まず2週間のスクーリング期間を設け、全面的に対面授業を行うなどキャンパスにも多くの学生の姿が復活し、やっと大学らしさが戻ってまいりました。一方、桜ヶ丘の鹿児島大学病院では、7月から重症者を中心にコロナ患者の受け入れが続いています。患者さんはもちろん大変ですが、受け入れる医療従事者も心身ともに疲れも甚だしく、家に帰っての感染拡大を警戒して大学で手配したホテルからの出勤が続くなどこれまで経験したことのない体制を用意してコロナ禍に立ち向かっています。第2波を終えしばらくの間は入院も途絶えましたが、第3波の始まりとともに鹿児島県内にも重症者の発生が始まり、再び緊張感を持つての大学病院の運営となっています。

また、コロナ禍でアルバイト収入が大幅に減少するなど生活困窮に喘ぐ学生が多く出ていることを鑑み、本学独自の学生支援策として、第一次支援を本学卒業生の稲盛和夫氏（京セラ名誉会長）のご寄附により設置した「鹿児島大学稲盛和夫基金」を原資とし、1,294人の学生に対し（学部学生・修士課程学生には5万円、博士課程学生には10万円）総額約6,700万円の支援金を5月末までに給付しました。第二次支援を「鹿児島大学修学支援事業基金」を活用して新たに募った寄附金を原資に387人の学生に対し総額約2,000万円の支援金を9月18日までに給付しました。OB・OGの皆様方からは多大なご支援をいただき、ここに感謝の意を表します。有り難うございました。これらの支援は、全国でもまれに見る規模と迅速さで注目をされました。

一方、学内からは、6月に大学院理工学研究科の隅田泰生教授らが新型コロナウイルスのPCR検査にかかる時間を大幅に短縮し、精度も高い手法の臨床研究を進めているとの報道発表がありました。同じく6月には、ヒトレトロウイルス学共同研究センターの馬場昌範センター長らの研究チームが、培養細胞において新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）の増殖を強く阻害する化合物を同定したとの報道発表が続き、9月には新型コロナウイルス感染症に対する有効な治療法の論文の発表がありました。医歯学総合研究科皮膚科学分野の金蔵教授らは、株式会社JIMROの協力を得て研究・開発を行って来た「顆粒球・単球吸着除去療法」が新型コロナウイルス感染症重症化の要因となるサイトカインの過剰産生及びそれに引き続く血栓形成の抑制に有効であることを突き止めました。以上のように、鹿児島大学においても対コロナの戦いが研究や医療の現場でも力強く進められている発表が相次いでいます。

さて、とうとう11月16日（月）に本学構成員としては初めて学生1名の新型コロナPCR陽性が判明し、11月25日までに計23名の本学学生に陽性が確認され、本学サークルによる集団感染、いわゆるクラスターが発生しました。OB・OGの皆様には、大変なご心配をおかけいたしましたこと、心からお詫び申し上げます。その後は、学内の消毒をはじめ、徹底的なPCR検査の実施など感染拡大防止と全容の解明並びに体制づくりに全力で取り組んでまいりました。年初からは入学試験の時期となり、その対応策をしっかりと行い、感染拡大の防止に努めたいと考えています。これからもウイルスとの闘いは続くと思います。本学は緊張感をもって、この未曾有の危機を一丸となって乗り切るべく努めていく所存でございます。今後ともご理解とご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

鹿児島大学の近況

—進取の気風あふれる総合大学—

(2020年5月から2020年10月までのトピックス)

徳之島3町（徳之島町・天城町・伊仙町）との包括連携協定をオンラインで締結（5月20日）

鹿児島大学と徳之島3町（徳之島町・天城町・伊仙町）は、それぞれの資源や機能の活用を図りながら、より幅広い分野で相互に包括的に連携協力して地域社会の活性化に寄与することを目的として、令和2年5月15日に包括連携協定を締結しました。

なお、今回の締結式は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、鹿児島大学と天城町役場をインターネット回線で結び、映像及び音声リアルタイムで送受信することにより執り行う「オンライン締結式」で実施しました。

協定締結式では、佐野輝鹿児島大学長、高岡秀規徳之島町長、森田弘光天城町長、大久保明伊仙町長による協定書への署名に続き、高岡徳之島町長から「グローバルやICTを含めた人材育成」について、森田天城町長から「水産資源の活用や陸上養殖の実証事業など水産振興」について、大久保伊仙町長から「長寿や闘牛文化など多様性を活かした地域振興」について、それぞれ連携・協力して取り組みたい旨抱負を述べました。続いて、佐野学長が「『南九州から世界に羽ばたくグローバル教育研究拠点』のスローガンの下、今回の包括連携協定を機に、地域と大学は運営共同体として、地域に資する教育や研究を一層推進して参りたい」と決意を述べました。

徳之島3町（徳之島町・天城町・伊仙町）と鹿児島大学は、これまで南西諸島域の基幹産業であるサトウキビに関する生産管理の高度化を目指した「IoT先端農業実証プロジェクト」を3町連携で進めているほか、農業・水産業・畜産業を中心に各町とそれぞれの特性に合わせた多様な連携を行ってきており、今回の包括連携協定締結を機にさらなる連携協力の強化が期待されます。

新型コロナウイルス感染症に対する治療薬候補となる化合物を同定 ～オンコリスバイオファーマ株式会社（東京）と臨床開発に向けた特許譲渡契約を締結～（6月22日）

6月22日、鹿児島大学事務局第一会議室にて、鹿児島大学ヒトレトロウイルス学共同研究センターによる「新型コロナウイルス感染症に対する治療薬候補となる化合物」の同定に関する記者発表を行いました。

本記者発表は、平成31年4月に、鹿児島大学難治ウイルス病態制御研究センターと熊本大学エイズ学術研究センターが再編・統合して設置されたヒトレトロウイルス学共同研究センターの馬場昌範センター長、同センター・鹿児島大学キャンパスの岡本実佳准教授、外山政明特任助教の3名からなる研究チームが、同センターに設置されているバイオセーフティーレベル3（BSL3）実験施設を用いた研究により、培養細胞において新型コロナウイルス（以下SARS-CoV-2）の増殖を強く阻害する化合物を同定したことによるものです。

記者発表では、初めに、佐野輝鹿児島大学長から発表内容の概略説明及び企業との共同研究により本学発の薬剤が新型コロナウイルス治療薬として開発されることへの期待が述べられ、続いて、馬場センター長から、本日発表に至った研究成果の詳細と今後の研究開発計画についての説明があり、製薬企業と出来るだけ早期の臨床試験に向けた共同研究を行うことで、COVID-19に対する新規治療薬の開発につなげたいとの熱意が語られました。

本学では、本研究成果に基づき、令和2年5月18日「抗SARS-CoV-2薬」の発明を特許庁に出願、また、当該薬剤の臨床開発に着手するため、令和2年6月19日オンコリスバイオファーマ（株）と特許譲渡契約を締結しました。

今後は、特許譲渡先のオンコリスバイオファーマ（株）が国際特許出願を行うとともに、作用機序の解明、大量合成法の開発、薬物動態試験や安全性試験を実施する等、開発候補化合物の決定を行う予定です。

なお、本学とオンコリスバイオファーマ（株）とは平成18年より抗ウイルス薬の開発に関する共同研究を行っており、馬場センター長は同社が開発を進めているOBP-601（センサブジン）の発見者の1人でもあります。

仙巖園にて株式会社島津興業代表取締役社長島津忠裕氏と学長が対談（7月21日）

7月20日、佐野輝鹿児島大学長が、薩摩藩島津家ゆかりの株式会社島津興業代表取締役社長島津忠裕氏と島津家別邸「仙巖園」園内の御殿「謁見の間」で、対談を行いました。

本対談は、本学広報誌「鹿大ジャーナル」（年3回発行）冬号（11月発行）の恒例の特集企画である「学長対談」として、コロナ対策を万全に行い実現できたもの。

今回のテーマ「薩摩からSATSUMAへ～世界へ羽ばたくグローバル人材育成への挑戦～」と題して、中島宏広報センター長（法文学部教授）の司会進行により、150年以上前の偉人たちが築き上げてきた鹿児島を振り返りながら、本学が目指すグローバル人材育成と島津氏による観光経営における人材育成を中心に、歴史と文化の香り漂う中で約90分間にわたり、お互いの進むべき未来について熱く語り合いました。

対談の最後には、企業側の求める人材像と大学側のカリキュラム等についての意見交換、インターンシップにおける、就業体験だけに限らない共同研究のようなバリエーションの多彩化等の島津氏からの要望に対して、歴史そのものが混在する魅力的な観光スポットのある素晴らしい鹿児島の地で本学も是非手を取り合いながら協力していきたいと佐野学長が締めくくられ、大変有意義な対談となりました。

鹿児島大学稲盛記念館「京都賞ライブラリー」内覧会を開催（7月30日）

7月29日、稲盛記念館3階京都賞ライブラリーにおいて、「京都賞ライブラリー」内覧会を開催しました。

本内覧会は、昨年12月の稲盛記念館オープニングの際には整備中であった5面マルチ及び4面タッチパネルが整備完了となり、一般公開に先駆けて、日頃お世話になっている報道機関各社を対象に開催したものです。

内覧会では、稲盛アカデミー長でもある武隈晃鹿児島大学理事（教育担当）の開会挨拶の後、佐野輝鹿児島大学学長から、完成の喜びと感謝に加え、一人でも多くの学生や一般の皆さま方に、ぜひ、見て触れてほしいと挨拶がありました。

続いて、檜物省一稲盛財団常務理事からは、稲盛和夫名誉会長も内覧会の開催を大変お喜びいただいている旨の報告と、京都賞ライブラリーと稲盛財団の説明等がありました。

最後に、武隈晃理事から、京都賞ライブラリーの概要説明とタッチパネルの操作方法について、具体的な説明があり、質疑応答では、記者の皆さんから多くの質問があり、佐野輝学長と檜物省一稲盛財団常務理事が丁寧にわかりやすく回答され、今後は、更にコンテンツを充実させ、幅広く一般の方々に「京都賞」について深く理解してもらう場になりたいと締めくくられました。

「京都賞ライブラリー」は、京都大学、九州大学、京都市京セラ美術館に続き4か所目、但し、デジタル式は、京都市京セラ美術館と本学のみ。いずれも観覧無料です。是非、皆様も、本学の「京都賞ライブラリー」へ足を運んでみませんか？多くの皆様のご来場をお待ちしております！

新型コロナウイルス感染症に対する有効な治療法の論文を発表（9月1日）

8月31日、鹿児島大学医歯学総合研究科歯学部大会議室において、新型コロナウイルス感染症に対する有効な治療法の論文発表について、記者発表を行いました。

この論文は、同研究科皮膚科学分野・金蔵拓郎教授が、感染症に関する国際誌 "International Journal of Infectious Diseases"（7月25日付け）に発表したもので、本邦で開発された体外循環療法である顆粒球・単球吸着除去療法が新型コロナウイルス感染症（以下、COVID-19）の重症化を防ぐ有効な治療法であることを示したものです。

金蔵教授は、COVID-19への対応策として重症化を予防することが重要であることに着目し、医歯学総合研究科皮膚科学分野が株式会社JIMROの協力を得て研究・開発を行って来た「顆粒球・単球吸着除去療法」（単球・マクロファージ・顆粒球の除去と細胞機能の制御を目的として行う体外循環療法）がコロナウイルス感染症重症化の要因となるサイトカインの過剰産生及びそれに引き続く血栓形成の抑制に有効であることを突き止めました。

記者発表では、初めに馬場昌範理事（研究・国際担当）から、この度論文発表した治療法をCOVID-19の重症化の予防に役立てたいと挨拶がありました。

引き続き、金蔵教授から、顆粒球・単球吸着除去療法がCOVID-19の重症化を予防する仕組みについて、また、同治療法の特徴として、病的な顆粒球と単球を選択的に体外に除去するため副作用が少ないこと等の概要説明がありました。

概要説明終了後は、出席した記者から、本治療法や本治療法の活用に係る今後の展望について多くの質問が寄せられ、COVID-19への対応及びCOVID-19に関する世界各地で展開される研究に対する関心の高さが窺えました。

今後、この論文発表をもとに、できるだけ早期に臨床試験を実施し、COVID-19に有効な治療法の確立を目指していきます。

台湾国立高雄科技大学と合同オンライン講演会を実施（10月1日）

9月23日、台湾の国立高雄科技大学と鹿児島大学が、Web会議システムZoomを活用した講演会を合同開催しました。高雄科技大学は、本学と大学間学術交流協定を締結している協定校であり、これまで両大学では、協定校留学による学生の交換や短期海外研修の派遣、受入れ等を行ってきました。

本学の牧野暁世特任助教（キャリア形成支援センター／前産学・地域共創センター）を講師とし、「地域キャリア・インターンシップにおける地域貢献機能とインターンシップ専門人材の役割」という演題で講演を実施し、高雄科技大学からは台湾における地方創生プロジェクトに関わる11名の教職員が、本学からは森田豊子特任准教授（グローバルセンター）が参加しました。

今後、地域共創という共通の目標を掲げている両大学の共同研究等の協力が計画されていることから、高雄科技大学の要請で、牧野特任助教を中心に4年前から構築・実施してきた「地域キャリア・インターンシップ」制度の概要、評価、地域貢献機能、制度に欠かせないインターンシップ専門人材の役割と今後の課題についての講演が実現しました。

主たる受入先である鹿児島県内企業と学生のマッチング、受入先の現状や課題を理解する事前学習、夏季休暇中の現場研修、学びの振り返りと発表用資料作成を行う事後学習、さらに成果報告会までつながる、1年をかけたインターンシップ事業について話を聞いた国立高雄科技大学の参加者からは、今後、同大でも同様のインターンシップを行う際に大変参考になるとの声が上がりました。高雄科技大学とは今後も引き続き共同研究等を行う予定です。

鹿児島大学と JAL グループが連携協力協定を締結（10月5日）

10月5日、鹿児島大学稲盛記念館にて、鹿児島大学と JAL グループは、地域に密着したパイロット人材創出のための連携協力協定を締結しました。

本協定は、本学佐野輝学長と日本航空株式会社、日本エアコミューター株式会社が、西日本の地域と地域及び鹿児島県を中心とした離島の空の足を永続的・安定的に支えていくために、パイロットを目指す人材の裾野の拡大、人材発掘、育成について三者で連携協力協定を締結したものです。

締結式では、三者が協定書へ署名後、越智健一郎社長、立花宗和執行役員運航本部長、佐野輝学長からそれぞれ挨拶があり、三者が力をあわせて地域貢献をめざしていくこと、また、本協定の実現の橋渡しである稲盛和夫鹿児島大学名誉博士への謝辞が述べられました。

引き続き、稲盛和夫鹿児島大学名誉博士からのメッセージを武隈晃鹿児島大学稲盛アカデミー長が代読、このたびの連携協定締結が、パイロットになり、故郷に貢献したいという若者の美しい「思い」を受けとめ、実現を後押しするとともに、鹿児島大学、日本航空・日本エアコミューターの発展を促し、さらには鹿児島の離島の皆さんの暮らしを支えるものとなることへの願いが伝えられました。

今後、本協定により、本学の学生に応募者を募り、その中から8名の学生に対し、飛行操縦体験 SKYCAMP(*)に参加いただき、パイロットとしての可能性を秘めた方2名に対して更なるパイロットライセンス取得訓練を提供、その間必要な資金に対する支援等を本学、JAL・JAC で実施し、学生の新たな能力を開発し、地域振興及び域内の経済発展に貢献してまいります。

(*)SKYCAMP とは、JAL・JAC がこれまで航空輸送事業を通じて培ってきた飛行操縦に係るノウハウをもとに設計した安全で高品質なプログラムで、参加者は2週間程度の工程を通じ、飛行操縦の原理、必要な技術を学び、最終的に自らの手で飛行機を飛ばす体験を行うもの。

奄美大島及び徳之島の世界自然遺産推薦地に関する連携協定を締結（10月26日）

10月26日、鹿児島県庁にて、環境省沖縄奄美自然環境事務所、鹿児島県、国立大学法人鹿児島大学及び国立研究開発法人国立環境研究所生物・生態系環境研究センターは、4者で奄美大島及び徳之島の世界自然遺産推薦地に関する連携協定を締結しました。

本協定は、世界自然遺産推薦地のうち奄美大島及び徳之島において、4者の連携のもと、長期的な調査研究を促進し、両島の自然環境・文化等に関する科学的・専門的知見を蓄積しながら、モニタリングと科学的な管理の基盤を整備し、世界自然遺産推薦地の保全管理に貢献するとともに、これらの知見やフィールドを活用し、奄美群島国立公園の生態系管理型及び環境文化型の保全管理の担い手となる人材育成を図ることを目的とするもの。

締結式は、環境省沖縄奄美事務所による協定の概要説明、4者による協定書への署名に続き、塩田康一鹿児島県知事、東岡礼治環境省沖縄奄美自然環境事務所長、佐野輝鹿児島大学長、山野博哉国立研究開発法人国立環境研究所生物・生態系環境研究センター長から挨拶があり、今後の奄美大島及び徳之島における活動予定や取組、対象地域へ寄せる期待などについて述べられました。

今後は4者が相互に連携・協力し、それぞれの資源や機能などの活用を図りながら、奄美大島及び徳之島の世界自然遺産推薦地の保全管理への貢献、保全管理に係る人材育成を目指していきます。

教員の受賞等

- ①理工学研究科の鷹野敦准教授が理事長を務める NPO 法人「こどものけんちくがっこう」が日本建築学会教育賞を受賞（5月8日）
- ②法文学部の日野道啓准教授が日本貿易学会賞を受賞（8月4日）
- ③理工学研究科の中西裕之准教授が日本天文学会2020年秋季年会で2019年度欧文研究報告論文賞を受賞（9月9日）
- ④理工学研究科の内海俊樹教授らが日本微生物生態学会、日本土壌微生物学会、台湾微生物生態学会、植物微生物研究会、極限環境微生物学会が共同編集している国際誌「Microbes and Environments」の2019年度論文賞を受賞（9月23日）
- ⑤農学部の寺本行芳准教授が日本緑化工学会第51回全国大会で技術奨励賞を受賞（10月21日）
- ⑥理工学研究科の鷹野敦准教授が理事長を務める NPO 法人「こどものけんちくがっこう」が第14回キッズデザイン協議会会長賞・奨励賞を受賞（10月26日）

学生の表彰等

- ①第48回鹿児島陶芸展で教育学部の亀川由季さんが優秀賞を、教育学研究科の藤田菜々恵さん、教育学部の塩満一輝さん、本溜奈々加さんが特選を受賞（8月7日）
- ②第38回南日本女流美術展で教育学部の山下夢乃さんが特選を、教育学部の前門琴音さんが奨励賞を受賞（8月11日）

<以上、鹿児島大学ホームページから転載>

鹿児島大学の年次決算について、従前から、大学ホームページ上や官報公告で財務諸表を公表しておりましたが、昨今、学生・保護者・卒業生・地域住民・産業界等の各ステークホルダーに対して、より積極的な情報開示を求められていることを踏まえ、令和元年度決算より、下記の通り、年次決算の概要を情報開示いたします。

令和元年度鹿児島大学決算について

国立大学法人は、国から負託された業務の実施に関して財務情報に基づく財政状態や運営状況に関する説明責任を果たすため、財務諸表を作成し公表することとされています。また、国立大学法人はステークホルダーに対する積極的な情報開示を求められています。

財務諸表は、企業会計原則に基づきながら国立大学法人の主たる業務が教育研究であること、授業料等の学生納付金や附属病院収入等の業務特性があること等に配慮し固有の会計処理を定めた「国立大学法人会計基準」等に従い作成しております。

本学の令和元年度末における財政状態は、貸借対照表にありますように資産が1,391億円、負債が578億円、純資産が813億円となっております。また、本学の令和元年度における運営状況は、損益計算書にありますように経常収益が519億円、経常費用が506億円となり、臨時利益及び臨時損失を含めると0.7億円の当期総利益となります。

本学を取り巻く財務状況は、法人化以降の運営費交付金の削減など大変厳しく、効果的かつ合理的な大学運営が強く求められております。

このような状況を踏まえ、本学は業務の効率化等による経費節減や自己収入等の増加を図るなど、より一層の財政基盤の強化を進めていくとともに、教育・研究・診療・社会貢献活動等のさらなる充実・向上に努めて参ります。

今後とも皆様方のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

貸借対照表

【期末時点の財政状態】

資産	負債
139,172 (+2,613)	57,864 (+1,862)
	純資産
	81,307 (+750)
	当期末処分利益 (内数)
	77

損益計算書

【一会計期間の運営状況】

経常費用	経常収益
50,692 (+573)	51,950 (+881)
臨時損失	臨時利益
1,215 (+657)	7 (▲6)
当期総利益	繰越積立金取崩等
77 (▲383)	27 (▲29)

決算報告書

【国の会計制度に準拠】

収入予算	収入決算
53,383	55,187
支出予算	支出決算
53,383	53,951
収入-支出	
1,236	

利益の処分にに関する書類

【未処理利益の処分内容】

利益処分額	77
(内訳)	
目的積立金	77
積立金	-

(内訳)

外部資金の収支差	279
翌年度への繰越等	880
目的積立金	77

※ 単位は百万円です(カッコ内は前年度増減)。
 ※ 単位未満の端数処理の関係上、合計額等が合わない場合があります。

【主なトピックス】

(資産)

- 翌年度以降竣工分の繰越等(共通教育棟4号館改修など)の建設仮勘定増(779百万円)
- 建物及び工具器具備品等の減価償却等による減(▲651百万円)
- 未払金・寄附金の増、目的積立金の繰越増などに伴う現金及び預金の増(2,613百万円)

(負債)

- 稲盛記念館寄附受けに伴う資産見返負債の増(932百万円)
- 期末未払金増(1,206百万円)

(費用及び収益)

- 診療経費増(+819百万円)、附属病院収益増(+1,278百万円)
- 人件費増(+321百万円)

(臨時損失)

- 医科病棟取壊し工事等による減損損失計上(657百万円)

(損益等)

- 当期総利益 77百万円(前年度比 ▲383百万円)
- 目的積立金 77百万円(翌年度以降、教育、研究、診療の質の向上等に充てる予定)



詳細についてはホームページまで → <https://www.kagoshima-u.ac.jp/about/zaimu.html>
 担当係: 財務部財務課決算係 mail: kessan@kuas.kagoshima-u.ac.jp

新型コロナウイルスの感染拡大に伴う 「鹿児島大学修学支援事業基金」へのご寄附のお礼

日頃より、鹿児島大学の教育研究活動に格別のご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。
この度の新型コロナウイルス感染症により亡くなられた方々、および、ご家族、関係者の皆様に謹んでお悔やみ申し上げますとともに、罹患された方々には心よりお見舞い申し上げます。

過日より、新型コロナウイルス感染拡大の影響により生活要支援の状態にある学生を支援するため「鹿児島大学修学支援事業基金」へのご協力をお願いしていたところ、学内外の多くの皆様にご協力いただき、深く感謝申し上げます。

今回、緊急でのご寄附のお願いを5月11日から開始しましたところ、2ヶ月足らずで2,000万円を超えるご寄附を賜り、ご寄附の総額は2,500万円を超えております。

これもひとえに、皆様の「コロナ渦で困難な状況にある学生を助きたい」という温かいお気持ちのおかげであると心より感謝しております。

さて、本学では、独自の学生支援策として、新型コロナウイルス感染拡大の影響により大幅にアルバイト収入が減少した学生、又は家計が急変した世帯の学生など生活要支援の状態にある学生に対し、緊急支援措置として返済を要しない「鹿児島大学学生緊急支援金」の給付を行いました。

まず、第一次支援として、緊急事態宣言などの影響により現に生活に困窮している学生を早急に支援するため、本学卒業生の稲盛和夫氏（京セラ名誉会長）のご寄附により設置した「鹿児島大学稲盛和夫基金」を原資として、1,294人の学生に対し総額約6,700万円の支援金を5月末までに給付しました。

また、学生の被った経済的ダメージは大きく、第一次支援だけでは十分とは言えないことから、第二次支援として、鹿大「進取の精神」支援基金の枠組みの一つである「鹿児島大学修学支援事業基金」を活用して追加の支援を行うことを決定し、皆様から頂戴しました寄附金を原資として、387人の学生に対し総額約2,000万円の支援金を9月18日までに給付しました。

このように、二次にわたり本学独自の学生支援策を実施することができましたのも、卒業生、保護者、地域住民、地元企業及び教職員など数多くの皆様からの温かいご支援のおかげでございます。ご寄附を賜りました皆様には感謝の念に堪えません。

新型コロナウイルスの収束が見通せない中、本学の教育研究活動は、引き続きウィズコロナへの対応が余儀なくされます。財源に限りがある中ではございますが、今後も様々な形での支援策を検討して参ります。

出費多端な折に大変恐縮でございますが、今後ともご支援を賜りますようお願い申し上げます。

皆様のご健勝とご多幸、そして皆様の生活が一日も早く平常に戻りますよう祈念いたします。

国立大学法人鹿児島大学長 佐野 輝

鹿大「進取の精神」支援基金へのご寄附のお願い

鹿大「進取の精神」支援基金は、地域活性化の中核的拠点の構築、世界に開かれた教育・研究拠点の形成を図るため、人材育成及びイノベーション機能の強化、質の高い教育研究の推進及び地域貢献活動の一層の活性化に向けて整備・充実を図ることを目的としております。詳細につきましては、本学担当窓口へお問い合わせいただくか、Webサイトをご覧ください。

本基金の趣旨にご賛同いただき、皆様のご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

鹿大「進取の精神」支援基金 Web サイト <http://www.kagoshima-u.ac.jp/kifukin/>

古本募金のご案内

鹿児島大学古本募金とは、皆様から読み終えた本・DVD等をご提供いただき、その査定換金額が本学に寄附される取り組みです。寄附金は、質の高い教育研究の推進及び地域貢献活動の一層の活性化に向けた整備・充実に役立てられます。詳細につきましては、本学担当窓口へお問い合わせいただくか、Webサイトをご覧ください。

鹿児島大学古本募金 Web サイト <https://www2.kishapon.com/kagoshima-u/>

遺贈によるご寄附のご案内

本学では、所有しておられる資産の一部を、将来、本学に遺贈（遺言によるご寄附）したいとお考えの方に対し、遺言信託業務を取り扱う提携銀行をご紹介します。提携銀行では、遺言書作成のご相談から遺言内容の執行まで、専門のスタッフがサポートいたします。詳細につきましては、Webサイトをご覧ください。

本学への遺贈をご希望される場合は、本学担当窓口へお問い合わせいただくか、提携銀行へ直接お問い合わせください。

遺贈によるご寄附 Web サイト <https://www.kagoshima-u.ac.jp/kifukin/cat1353/izou.html>

【提携銀行（五十音順）】

鹿児島銀行 営業統括部（信託チーム）／みずほ信託銀行 鹿児島支店

／三井住友信託銀行 鹿児島支店

税制上の優遇措置について

本学へのご寄附につきましては、所得税法、法人税法上の優遇措置の対象となります。また、お住まいの都道府県・市区町村が、条例で本学を寄附金税額控除の対象として指定している場合、個人住民税の税額控除が受けられます。なお、相続税申告期限内に遺贈により本学にご寄附いただいた財産については、相続税はかかりません。詳細につきましては、Webサイトをご覧ください。

お問い合わせ先

鹿児島大学総務部総務課基金・渉外係
TEL 099-285-3101／FAX 099-285-7034
E-mail s-kikin@kuas.kagoshima-u.ac.jp

各学部同窓会活動報告

法文学部同窓会

1. 法文学部同窓会の歩み

昭和28年3月18日に第1回生卒業、「文理学部同窓会」が発足。同窓会長に後藤弘毅文理学部長、副会長に坂上文雄氏（第1回卒業生）が就任。第1回同窓会総会・懇親会は昭和28年9月に開催された。第2回目以降は鹿児島大学開学記念日と定められた11月15日に開催することが決定された。現在は11月15日の直近の土曜日に開催している。

同窓会会費は終身会費3,000円と就職開拓費1,200円を徴収していた。因みに現在は終身会費12,000円のみ徴収している。

昭和40年4月に文理学部を法文学部、理学部、教養部に分離することになった。文理学部は16年の寿命を終えて法文学部へと継承されることになった。同窓会も昭和43年11月15日開催の第16回総会を以て文理学部同窓会の最後とし、法文学部同窓会に改名することにした。

なお、その際、文理学部同窓会が保有していた同窓会基金は、同窓生に比例按分して、法文学部同窓会と理学部同窓会に配分されることになった。

昭和44年11月15日、法文学部第1期卒業生を迎えて第17回法文学部同窓会総会が開催された。そこで、坂上文雄副会長が会長に就任し、会長の土谷久雄学部長は顧問になられた。各卒業年度から1名ずつ理事を出して役員会（理事会）を構成した。

平成8年2月、法文学部同窓会長坂上文雄氏の突然のご逝去により、副会長の根本千春氏が会長代理として3月の卒業祝賀会・同窓会入会式に当たられ、11月15日の第43回同窓会総会で2代目（同窓生として）会長に就任された。

平成11年には法文学部は文理学部時代を含めて創立50周年を迎えることになり、法文学部同窓会として法文学部に「奨学研究助成金」として600万円の寄付をした。4年後の平成15年には法文学部同窓会創立50周年に当たり、学部助成金として700万円を寄付した。

平成15年11月15日開催の法文学部同窓会創立50周年記念総会を機会に根本会長は勇退し、江口正純氏が第3代会長に就任した。

平成16年4月、鹿児島大学同窓会連合会が結成され、初代会長に江口正純氏が選出され、全学的な同窓会組織による支援体制と各学部同窓生の横断的交流（4月の総会・懇親会）やOBゴルフ大会が続けられている。

OBゴルフ大会で法文学部がなかなか勝てないことから平成25年10月に昭和41年卒の牧安伸氏を会長として文理・法文・理学部の卒業生による「鹿大北辰ゴルフ会」が発足し、毎年10月と2月にコンペを開催し、50名前後の参加者で選手強化・交流を図っている。

平成27年4月には文理学部から分離して法文学部が創立50周年になることから学部と共催して記念行事を開催。記念式典・祝賀会を開催した。また、「法文学部同窓会教育研究助成基金」として法文学部に690万円の寄付を行い学生の海外留学及び国内派遣の支援をしている。併せて「法文学部50年史」も刊行した。

平成29年11月開催の総会において、江口正純氏が会長を勇退し、仮屋基美氏が第4代会長に就任した。

2. 第15回鹿大北辰（文理・法文・理学部卒業生）ゴルフ会コンペ開催

令和2年10月17日（土）第15回鹿大北辰（文理・法文・理学部卒業生）ゴルフ会コンペが南国カンツリークラブで開催された。33名の参加で成績は以下の通り。

優勝	船川 寿穂（S46法文・経済学科卒）	ネット	67.6
2位	堀之内 勇（H2法文・法学科卒）	ネット	71.2
3位	福田 和仁（H8法文・経済学科卒）	ネット	72.2
ベストグロス	堀之内 勇（H2法文・法学科卒）	グロス	76

新たな価値を創造する「鹿児島県の教育を語る会」

1 第18回「鹿児島県の教育を語る会」

「進取の気風」にあふれる在学生の育成に努め、会員との交流を深める目的で平成14年から毎年開催している「鹿児島県の教育を語る会」を令和元年11月29日教育学部で開催した。学生、教職員、卒業生の約70人が6グループに分かれ、16時半から18時まで熱心に「教育」について語り合った。

未来の教師を目指す学生たちの意欲的な発言に、先輩たちはこれまでの経験やエピソードを交え疑問や質問を一緒になって考え、熱心にアドバイスしていた。老いも若きもお互いを知る絶好の機会となっていた。



2 懇親交流会

グループ協議に引き続き、18時半から20時まで教育学部食堂でバイキング形式の懇親交流会が開かれた。会は同窓会の歌「我が友よ」の斉唱で始まり、各グループの代表が会に参加した感想や意見を発表した後、オードブル盛り合わせ、巻盛り合わせ、おでん、天ぷら、ローストビーフ等を食べながら談笑し、会員相互の親睦が図られた。



3 参加した学生の感想

語る会、懇親交流会に初めて参加したが、同じ学び舎で学ぶ学生、大学の先生方、現場で働いていらっしゃる先生方、退職された先生方など様々な立場や世代の方の意見を聞くことができ、とても深い学びとなった。それぞれの方が自分が考えたこともなかったような視点から物事についての見解を述べていらっしゃることで自分自身に新たな価値観が創造されたように思う。貴重な時間をありがとうございました。

(文責 同窓会研修部)

新型コロナウイルスと同窓会

理学部同窓会南明会
関西支部設立発起人 若松 操
(昭和44年・化学科卒)

新型コロナウイルス感染が中国・武漢で始まって、もうすぐ1年が経とうとしているが、鹿児島大学理学部同窓会南明会関西支部も大きく翻弄された。

実際には、まだ南明会関西支部は誕生していない！

南明会メンバーの方々と関西地区（滋賀県、京都府、奈良県、大阪府、和歌山県、兵庫県）に居住し、住所を公開していただける方は、246名いる。この方々にハガキで関西支部設立を提案したのが2019年11月。そして南明会関西支部設立に賛同頂いた方々の中で、阪神近隣の方々と共に発起人会を開催したのが2020年2月29日。有馬一成先生を来賓に迎え、大阪梅田の貸会議室にて出席可能な発起人8名で開催した。うるう年の2月29日…忘れられない日に開催した発起人会にて「南明会関西支部会則案」「南明会関西支部役員案」を策定し、2020年＝南明会関西支部設立総会、2021年＝第1回総会をスケジュール案として採択した。

鹿児島大学同窓会連合会関西支部の設立も工学部しらなみ会の石田 覚氏を事務局として、すでに立派な活動を続けている各学部同窓会関西支部の方々を中心に着々と進められていることから南明会も皆さまに追いつくべくスケジュールを決め、南明会本部・関東支部と協力して「同窓生のタテヨコの繋がりを強化しよう」との思いで、恒例の七高寮歌放吟。そしてしこたま飲んで解散した。

しかし、ご存知のように3月以降社会環境は一変し、4月には「緊急事態宣言」。南明会関西支部は、全く動けなくなった。現状は時々メール連絡をする程度。でも世の中は進んでいる。「WITH コロナ」生活をしながら、時期がくれば即「総会の開催」に向けて動きたいものだ。

関西地区には、多くの皆さんが南明会関西支部設立総会を待っているものと思う。今、発起人会のメンバーは、化学科卒の方が多い状況だが、各学科卒業生、特に若い方々に交流の輪を広げていきたいものだ。

南明会の皆さま よろしくお願ひ申し上げます！！

【追記】 コロナ自粛の中、法文学部同窓会関西支部会長の廣田 稔氏の講演を聞くことができた。廣田氏制作の映画「天外者（てんがらもん）」が12月11日公開された。映画にも廣田氏の手腕にも感激した。

新型コロナウイルスの感染拡大と同窓会活動

医学科同窓会鶴陵会

同窓会の活動も本年2月頃からの新型コロナウイルス感染拡大の影響で先行きが見えない。同窓会連合会、各学部同窓会も同様ではないかと思う。前号の原稿を書いた時には10月頃には終息に向かうのではないかと半分期待していたが、7月頃から東京を中心に増加を始め、11月になると東京を上回る患者数を北海道で認めるようになった。7月にはGo toキャンペーンが開始され、10月からは除外されていた東京が含まれるようになったが、これらと患者数の増加は同じ動きをしているように見える。11月21日には東京の感染者数は539名と過去最多を示し、関東、関西そして北海道が危機的状況にあるとの報道である。世界に目を向けると米国、インド、ブラジルが感染者数の上位国であるが、それに加えてヨーロッパ各国の再増加が著しい。独自の対応策をとったスウェーデンは集団免疫を獲得したとの報道もあったが、最近増加傾向にあると云う。

例年8月に実施している鶴陵会本部の役員会・評議員会・総会も書面審議に変更し、予算・決算、業務計画など承認を頂いた。熊本、福岡、愛媛及び関東の支部会も中止になり、今年ほどの支部総会も開催されないことになった。残念な限りである。このままの状態が続くと、来年も総会・支部総会が開催されない可能性があり、同窓会活動の衰退に繋がるのではないかという心配も出てくる。現在、5年に一度の名簿発行の準備を行っているが、それと同時に毎年発行の会報が会員同士を結びつける重要な業務となる。何とかこの時期を乗り切って、ポストコロナ、ウイズコロナを迎えたい。(同窓会活動が制限される中、鶴陵会の活動報告も内容が乏しく厳しい状況が続く。)

(文責：医学部医学科同窓会鶴陵会 会長 高松英夫)

保健学科同窓会

2019年12月下旬より世界中に感染が拡大したCOVID-19、2020年3月にはパンデミック宣言がWHOから表明されました。日々業務を行い、新聞やテレビから情報を得ながら、我々医療従事者のもとにCOVID-19の足音が確実に近づいてきているのがわかりました。パンデミックに続き、緊急事態宣言と社会が緊迫した状況となり、「とうとう」という感覚になったのを覚えております。

鹿児島においても感染が確認された方がいらっしゃいました。インターネットでの情報の拡散、噂の蔓延これらは感染者本人だけでなく周囲の家族、友人の心を深く抉る凶器になりえます。加えて、これらの情報はCOVID-19よりずっと速いスピードで拡大していくということ、また良い形、悪い形と変化しながら拡大していくものであり、別の側面から見ればCOVID-19に比肩する、もしくはそれ以上の脅威となりうる物と思います。誤った情報を信じる、流布することは誤情報への感染とも言えるのかもしれない。誤情報への感染にもより留意する必要性を感じています。

卒業生の中には、自身の感染のリスクと戦いながら、目の前の患者さんとのリハビリ業務に携わっている方もいらっしゃるといいます。また入院中、退院された後のご本人、周囲の方々の心のケアにあたられている方もいらっしゃるかも知れません。願わくば、世界中が不安に晒されているそういう現状が、明日にでも解消されればと思います。しかし情勢を見る限り、そう簡単なものではないようです。医療従事者、またその関係者の方々が健康を維持し、この長い闘いにいつか打ち勝つ日が来ることを願う次第です。

(文責：医学部保健学科同窓会作業療法専攻部会会長 中村侑司)

歯学部 主な行事（中止等 含む）

- 3月 7日 第二回評議員会、新型コロナウイルス感染拡大にて書面会議とした。
- 15日 臨床研修医研修施設説明会はコロナウイルス感染拡大にて中止。
- 25日 卒業式・学位記授与式、謝恩会は中止されたが卒業記念品と正会員案内を送付した。今年
は43名の卒業生であった。
- 4月 2日 学生主催の新入生オリエンテーション 中止。
- 7日 入学式式典 中止。その後予定していた父兄懇親会も中止。
- 6月 13日 第67回全歯懇（岩手医科大学担当）、14日令和2年度国歯協（東北大学担当）中止。
- 7月 5日 教授会との協議会・懇親会 中止。
- 8月 1日 令和2年度第1回評議員会（NC サンプラザ）感染予防対策下にて学年評議員6名、支部
評議員2名、顧問2名の参加をいただき開催。
- 10月 25日 南九州歯学会 WEB 会議として開催。

コロナ禍における歯学部の授業体制について

歯学部同窓会副会長・歯科応用薬理学 教授 佐藤友昭

歯学部は10月より後期授業が開始されました。学生達には、幸いにして新型コロナ発症者はありません。皆、現状を理解、責任を考え、行動しているため、大きな問題は生じておりません。当学生は社会人としての自覚もあるようで、頼もしく思います。さて、10月から開始した授業・実習ですが歯学部では1年生（共通教育）の大講義室を使う授業以外は、対面授業を行っております。歯学部の学生は1学年55人程度ですが、三密を避ける対策として、小講義室を使う授業は2つの講義室を使い、オンラインで講師の授業を同時に受講できるようにしております。お陰様で歯学部の講義室は常にフル稼働ですので、教室使用のスケジュール配分に歯学教務係が大変な思いをしたのではないのでしょうか、感謝の念に堪えません。実習に関しては基本的に通常通り行っております。毎年、学外で行われている「地域医療体験実習」も幸いなことに、同窓会の献身的な協力により滞りなく行っているようです。同じく研究に関する実習である「研究実践」にて基礎系各分野に学生諸君が毎週、研究体験を行うために来室するのですが、同窓の先生方とのコミュニケーションを楽しそうに話してくれます。学生諸君の明るい眼差しはこちらの指導の活力にもなります。これら実習が滞りなく行われるのは、大学の教職員の努力も勿論ですが、地域の同窓生、同窓会の理解と積極的な協力があってこそだと思います。つまり、「同じ大学で働いている」、また、卒業した「同窓生、同窓会」という共同体意識が無ければ、満足な教育も成り立たないのではないのでしょうか。アメリカ大統領選挙について「国民の分断」と言う言葉がキーワードに出てきますが、「国民の分断」とは共同体が壊れる事を意味します。アメリカが真の意味で「国民の分断」がおこなっているかどうかは検討の余地がありますが、共同体が壊れるということは、価値観、目的意識の共有が壊れると言う事ですので、教育もままならぬということになり得るのでしょうか。私自身、改めて教育の本当のステイクホルダーとは、ということを再認識した、コロナ禍でありました。歯学部の教育を支えて下さった、全ての方々に心からお礼を申し上げます。

工学部同窓会

令和2年度の工学部同窓会の主な活動内容について報告いたします。

(1) 令和2年度鹿児島大学工学部同窓会拡大幹事会・岸園賞選考会

令和2年8月28日（金）に工学部建築学科棟2号館01教室にて開催しました。今回はコロナ感染症の感染防止対策として、消毒や換気、出席者間の距離などを考慮して実施し、司会（つかさかい）は中止としました（本会の詳細は、工学部同窓会誌 南桜風（2021年3月発刊予定）をご参照ください）。

○**拡大幹事会** 令和元年度の運営報告と令和2年度の運営計画について報告、審議いたしました。令和2年度の計画として、工学部創立75周年事業へ向けての特別支援金、コロナ感染症対策としての工学部への寄付事業（詳細は下記項目を参照ください）、また名誉会員の創設等について審議され、満場一致で承認されました。

○**「岸園賞」選考会** 「岸園賞」とは、寄付者の岸園司氏のご遺志である「鹿大の発展を。工学部同窓会の発展を」という理念のもと、鹿児島大学工学部の名を高めた方、あるいは工学部同窓会活動に尽力した方を表彰するものです。令和2年度は、鹿大北辰会（代表者名：太田芳明氏、大宮司尚氏、堤直敏氏、柿元邦彦氏）が推薦され、受賞は満場一致で決定しました。



拡大幹事会・選考会の風景（感染防止対策を行いながら実施）

(2) 新型コロナウイルス感染症対策に伴う工学部への寄付金贈呈

令和2年9月25日（金）に工学部同窓会会長の松永洋文氏が工学部長室を訪れ、鹿児島大学工学部における新型コロナウイルス感染症対策の費用として、寄付金（50万円）を拠金しました。寄付金の受納式が執り行われた後、木下英二工学部長と、松永氏をはじめとする工学部同窓会関係者と意見交換が行われ、木下工学部長からは『新型コロナウイルス感染症の感染予防・拡大防止策の財源として活用する』旨のお話をいただきました。なお、本贈呈式は、工学部のホームページでも紹介・報告されています。



木下英二工学部長（左）と松永洋文同窓会会長
（式典の前後ではマスクを着用）

（文責：工学部同窓会会計幹事 山元和哉）

農学部あらた同窓会

「あらた同窓会報令和2年秋季号」を発行しました。

鹿児島大学農学部あらた同窓会では、4～5年に1回の「会員名簿」の発行、毎年3月の「卒業生・修了生名簿」を発行するとともに、毎年2回（春季号と秋季号）「あらた同窓会報」を発行し、春季号は学生会員を含む一般会員に、秋季号は学生会員を中心にお届けしています。

また、11月23日（鹿児島高等農林学校開学記念日）には「あらた同窓会総会・懇親会」を開催し、ここ荒田（あらた）の地で学んだ仲間として年齢を越えた会員どうしの親睦を深めています。併せて、各県支部、クラス会などへあらた同窓会役員等を派遣して鹿児島大学農学部の近況について報告する活動も行っています。

例年は、学生会員向けには「学生向け講演会」を開催し、卒業生による報告、留学制度の利用と留学体験報告など、学生にとってタイムリーな話題で講演を行っています。そして、3月の卒業、修了時には、農学部と共催して「卒業・修了祝賀会」を開催しています。しかしながら、今年2月以降は「新型コロナウイルス感染拡大」の影響で、「卒業・修了祝賀会」、「学生向け講演会」および11月23日の「あらた同窓会総会・懇親会」は開催できませんでした。

そのような中、学生向けの内容を中心とする「あらた同窓会報令和2年秋季号」は、学内幹事や農学部学生や院生の方々のご協力で、例年どおり11月23日に発行できました。

例年の秋季号構成内容は、学部生・院生の執筆が主で、「ビバキャンパスライフ」、「教育実習体験記」、「インターンシップ体験記」、「介護体験記」および「留学体験記」等、様々な活動の報告が中心ですが、今年は「新型コロナウイルス」の影響で学部生・院生の活動が制限され、「インターンシップ体験記」、「介護体験記」の執筆はありませんでした。

今回は、あらた同窓会長による巻頭言「コロナ時代、君は何に挑戦するか」、農学部長による「鹿児島大学農学部の地域貢献と人材育成」のご寄稿に加え、4月以降行われてきた遠隔授業に関連して農学部FD委員長による「遠隔授業どうですか？」や同窓会事務局の「同窓会の活動について」を掲載しました。また、学部生・院生による「ビバ・キャンパスライフ」9編、「教育実習奮闘記」4編、「留学体験記」4編の他に、「農学部附属施設（附属農場、附属演習林、附属焼酎・発酵学教育研究センター）紹介」も掲載し、表紙（右写真）を加えて合計24ページになりました。この秋季号は農学部の全学生・院生、教員の他、各支部の総会等で配布します。

（秋季号詳細はあらた同窓会HP <http://aratadousokai.org/>をご覧ください）。

（文責：農学部あらた同窓会事務局）



水産学部同窓会魚水会

新型コロナウイルスの影響で毎年恒例の行事が縮小・取りやめになり、イベント・行事の記事が極端に少なくなりましたので、今号の水産学部同窓会活動報告は、水産学部学生の活躍ぶりをマスコミで紹介された記事の要約を掲載したいと思います。

*新種を命名し魚の論文2本が学術誌に掲載された (荒木萌里さん 修士2年)

地元南日本新聞の「かお」欄にも掲載された、荒木萌里さんがタツノオトシゴに属する「ヨウジウオ科」の2種についての論文を書き学術誌に掲載された。苦手な英語だけの論文にも挑戦した。彼女は昔から魚が好きで、魚や海について学びたいと思い、水産学部に入学したとのこと。新聞で魚類の新種発見などの記事を見たことから、魚類の分類に興味を持ち研究室配置では、魚類分類学研究室を希望しました。特にヨウジウオやタツノオトシゴなどの変わった姿や生態を持つ魚に対して興味があったそうです。



タマヨリタヅ
鹿児島大学
総合研究博物館所蔵

*国内初標本を作製、1年生で論文を執筆、和名を命名 (出羽優風さん 学部1年)

ベラ科ホホスジモチノウオ属の魚類「オキシリンカス・アレナタス (学名)」の標本を日本で初めて作成した。水産学部国際食料資源特別コースの出羽優風さんが和名を「ヒイロモチノウオ」と命名した。



ヒイロモチノウオ
鹿児島大学総合研究博物館所蔵

彼女は、魚類の分類学に興味を持ち1年生で論文を執筆し、日本魚類学会から優秀ポスター発表賞を受けた。

彼女のお父さんの出羽慎一さん(平成4年水産学部卒業)も、長年錦江湾の魚類について研究してきた、海のプロ水中写真家である。潜水事故でリハビリ中ですが、少しずつ回復しています、夢は親子で新種命名をすることだそうです。

*チョウチョウウオの新種「パンダゲンロクダイ」発見し論文を纏める (上城拓也さん 令和2年院修了)

鹿児島大学総合研究チームが鹿児島湾などに生息するチョウチョウウオ科ゲンロクダイ属魚類の新種を発見した。和名は白地の黒色の帯が入っていることから「パンダゲンロクダイ」と命名。

この論文をまとめたのが上城拓也さんである。彼は、鹿児島市谷山出身で、父に誘われて6歳から釣りを始め狩りにも似たわくわく感に夢中になった。

高校卒業後、水産とは関係のない職業を経て、「本当に好きなことをして生きたい」と思い鹿児島大学大学院で魚類を研究する本村浩之教授のもとへ。30歳で鹿児島大学大学院水産学研究科に入学。他の学生より年上だったが、「スタートの時期は関係ない。熱意を持ち続けて」という本村教授の言葉に勇気づけられた。令和2年春から琵琶湖近くの釣具店で働く。



パンダゲンロクダイ
出羽慎一氏撮影

*つけあげの原料「ツケアゲエソ」の命名 (中村潤平さん 令和2年院修了)

中村潤平さんが日本国内名には分布しないとされてきたエソ科魚類を南さつま市笠沙で確認した。日本初記録種として学術誌に報告し、鹿児島の郷土料理つけあげ(さつま揚げ)の原料となることから新標準和名「ツケアゲエソ」と命名した。ツケアゲエソは全長40cmほどになり、エソ科マエソ属の中では大型種。つけあげの原料には同じマエソ属のマエソやクロエソが使われているが、これらは見分けが難しく、ツケアゲエソも区別されることなく利用されてきたとみられる。彼は学生時代各地で魚釣りを楽しみ沢山の魚類に接して来た魚通である。

現在かごしま水族館に勤務中です。



釣りあげた際の
ツケアゲエソ

共同獣医学部紫友同窓会

令和2年のここまでの活動等についてご報告します。

1. 事務局会議

5月29日に学部内で事務局会議を開催し、評議員会で審議する議題及び報告事項について検討しました。今回は新型コロナウイルス感染症拡大予防の観点から、評議員会を書面会議とすることで合意されました。

2. 評議員会

6月18日～29日の期間で書面会議として開催され、議題として、①役員改選、②令和元年度事業報告及び決算、③令和2年度事業計画及び予算（案）について、事前に配布した資料に基づき審議を願い、その可否を郵送で回答してもらった結果、全会一致で承認されました。報告事項として、①学部の現況、②同窓会連合会の活動も書面で報告されました。学部の現況については、本学の獣医学教育が昨年12月にEAEVE（欧州獣医学教育機関協会）により「完全認証」として認められ、本事業の達成に県内の関係団体の全面的な協力があったことに対する謝辞と診断内容の概要説明があり、関係の報告書等を学部のホームページに掲載していることの紹介がありました。2月にはアメリカの動物福祉の認証機関であるAAALACインターナショナルより総合動物実験施設と軽種馬診療センターの認証更新審査を受審し、こちらも完全認証を取得したことが紹介されました。また、同窓会連合会の活動報告が議事録に基づいて説明されました。

3. 動物慰霊祭支援

動物慰霊祭は例年10月の第4土曜日に多数の市民の参加のもと開催されてきましたが、新型コロナウイルス感染症拡大予防の観点から、学部の教職員及び学生のみで9月30日に実施されました。開催にあたり同窓会からは献花の支援を行いました。

4. 学生支援

学部教育の参加型臨床実習のうち、学外実習変更のために新たに旅費等の経費負担増が学生に生じることを受けて、同窓会がその6割を支援することを決定しました。既に支援を受けた学生からは時節柄有り難いと言う感謝の言葉が寄せられました。この支援は今後も継続する予定です。

5. 会報6号の発刊

同窓会会報第6号を12月に発刊しました。この会報は会員相互の情報共有のツールとして活用してもらうことを目的に、年1回この時期に発刊しています。

▶特別寄稿文◀

川柳を楽しむ

教育学部同窓会副会長 久保 正和
(教育学部 S.39年卒業)

校長として最後に勤務した頃から、子どもと話したり自然に触れたりして、その時々心に留まったさやかな思いを、短い文にしたための習慣が出来た。それが、いつの間にか川柳を楽しむ習慣になった。この頃は新聞への投稿にも興味深く取り組んでいる。以下掲載頂いた中からいくつかの愚作を披瀝し、読んでくださる皆様のご指導を期待いたします。

- ・ 御来光 身も魂も 溶かし込む
- ・ 今悟る 感謝でいると 日々が楽
- ・ 人生は 実によく似て 観覧車
- ・ お彼岸に あの日の父と 語る夢
- ・ 変えられぬ 過去より変わる 明日がある
- ・ おはようと 妻の返しで 空気読む
- ・ お日様よ あなたのようによい 生きたいよ
- ・ 桜咲く 四季ある国の ありがたさ
- ・ 幸せよ 周りがみんな 笑顔なら
- ・ 我が性を 知りつつ変えぬ 身が悲し
- ・ 空しさは 水害あとの 青い空
- ・ ボランティア テレビの君に 掌を合わす
- ・ 健闘の 後の涙の さわやかさ
- ・ 気分良し 病気も直に 直るらし
- ・ 墓前にて 黙想すれば 父母が笑む
- ・ 立ち会うぞ 元号変わる 歴史の日
- ・ 書くほどに まだ見ぬものが 見えてくる
- ・ 心知る 友に打ち明け 気が和む
- ・ はやぶさよ 君の活躍 見ているぞ
- ・ 老いて増す 人の幸せ 想う日々
- ・ もしかして 部下のトラウマ あなたでは
- ・ 空しさは 孫らが去った あとの部屋
- ・ お日様の 匂いのシャツの 温かさ
- ・ 幸せは 気づかぬだけか 傍にあり
- ・ まっさらの 今日にはどんな 絵を描こう
- ・ 春を待つ 木々のつぼみに 似た心地
- ・ ゆっくりと ゆるりと老いる 日々楽し

▶特別寄稿文◀

ポツダムの桜

理学部同窓会南明会
幹事 伏貫 義十
(昭和50年・化学科卒)

元気がなくなった人に勧める本が2冊ある。ひとつは海外留学記、もうひとつは無人島生活記である。前者は在学中の学生が留学を志し努力して成し遂げるまでの話であり、後者は航海中に太平洋の暗礁に乗り上げ、やっとたどり着いた無人島で7人が役割分担をしながら発見されるまでの数年を生き抜いていく話である。いずれも日本人が経験した実話を基にしている。しかしながら、今からするお話は努力話でもなく、生き抜いていく話でもない。

2000年、ドイツ留学内示を受けた。翌2001年、鹿児島を後にし、警察庁科学警察研究所にて、`ドイツ連邦共和国ポツダム大学研修を命ず`との派遣辞令と緑のパスポートを受けとり、成田からLH航空にてフランクフルト空港着、国内線に乗り換え終着のベルリンテーゲル空港に向かった。冷たいベルリンは -5°C 。夜、予定したホテルに到着した際、フロントから`Are you Dr. Fushinuki ?`と声をかけられた時は何故かホッとした。翌日向かったポツダムでの滞在先は、サンスーシー公園の入り口すぐ近くにあり、公園内には有名なサンスーシー宮殿やノイエパレス、ポツダム大学の文科系学部があるが、通ったのは、理系学部があるやや離れたゴルム校舎である。私にはドイツでやりたいことが3つあった。ドイツは、かつて父や叔父達が手を携えて共に戦った国であり、自然科学研究ともに優れ、学問に厳格な国である。大学で実験講義中の教授が電報を受け取っても顔色一つ変えることなく講義を続けたという逸話がある。受け取った内容は、`父死す`。化学を学ぶ私にとってあこがれの国であった。当時、私は免疫電極の研究をしており、電極に抗体を修飾し、抗原と反応後の微小な電位変化を捉えていた。この教授はそのリーダーであった。大学での実験研究は勿論であるが、他の一つはベルリンの桜を見ることであった。以前、KBC九州朝日放送で戦前に植えられたベルリンの桜が紹介されたことから、着任挨拶に伺った日本大使館でその話をすると、いくつかの場所を教えていただいた。そのうちのひとつが、ロシア、ギリシャから来ている教授や博士課程学生と共に、Ulla准教授の案内で訪れたのがポツダムの桜である。この後ろには、1960年前後の東西冷戦時に米ソの大物スパイが交換されたグリニッケブリッジがあり、`日独友好のために`と記載された台座とともに、まだ大きくない桜の木が立っていた。壁崩壊後にこの木を植樹するにあたっては、在独テレビ放送ベルリン支局の方の多大な尽力があったと聞く。また、2011年の東日本大震災直後には、ここに多くのお悔やみの言葉が置かれた。日独ともに多くの苦難を乗り越えてきた歴史を見つめながら、この桜は今年もきれいな花を咲かせたことだろう。今年も新型コロナが生活に大きく影響を及ぼす年となったが、化学、医学、薬学を中心とした各分野から果敢に切り込みを入れ、展開している。また昨日、私が3年間お世話になった産学官連携推進センター棟内の研究者からも有力な切り込みが展開されたことが報道された。力強いことこの上ない。

末尾になりましたが、同窓生、在校生の皆さまの安寧と更なるご活躍をお祈りいたします。

筆者略歴：

福岡県生まれ、博士（工学）

鹿児島県警察本部科学捜査研究所退職後、新日本科学、メディポリス指宿研究財団を経て令和2年3月迄鹿児島大学産学官連携推進センター内の鹿児島TLO勤務

元日本法科学技術学会理事

キャリア支援セミナー 「きばいやんせ、鹿大生2020！」

日時 2020年12月5日（土）13：30～16：30

場所 【オンライン・会場同時開催】オンライン（ZOOM）および学習交流プラザ2F 学習交流ホール

司会	高原 要次氏	ラーニング・システムズ(株) 代表取締役社長（1978年法文学部卒業）
ゲスト	井上 進氏	丸和バイオケミカル(株) 代表取締役社長（1980年農学部卒業）
	久保 尊裕氏	大和ライフネクスト(株) 執行役員（1988年工学部卒業）
	笠 和子氏	原土井病院 緩和ケア内科医（1979年医学部卒業）
	樺山美喜子氏	(株)鹿児島放送 報道情報センターニュース編集長（1994年理学部卒業）
	多田 陽子氏	多田陽子税理士事務所（2002年法文学部卒業・2004年人文社会科学研究科修了）

12月5日（土）、キャリア支援セミナー「きばいやんせ、鹿大生2020！」が開催されました。6回目となる今回は、各分野でご活躍中のOB・OGの皆様をゲストにお迎えし、先輩スピーカーを務めていただきました。また今回は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、オンラインと会場で同時開催する形式で実施し、先輩スピーカーは会場及びオンライン、学生は全員オンラインでの参加となりました。

枚田邦宏キャリア形成支援センター長の開会挨拶に引き続き、佐野輝学長の挨拶があり、ゲストの卒業生の皆様へのお礼と本セミナー立ち上げに至った経緯のほか、参加学生には先輩方の熱い思いに触れ、是非そのパワーを吸収していただきたいとの期待が述べられました。

第1部では、高原氏の司会で全体セッションが行われました。各ゲスト1人ずつ自己紹介をしていただいた後、高原氏から、“仕事をする”ということについて、本学卒業生で京セラ創業者の稲盛和夫名誉会長が提唱される「人生・仕事の結果＝考え方×熱意×能力」という人生の方程式を引用して、お話しくださしました。また、経営者グループからは、経営とは何か、経営に必要な力、組織をまとめる要素などについて、専門家グループからは、技術を極めること、スペシャリストからプロフェッショナルにまで高めるべきことなどについてお話しくださしました。

第2部は、各スピーカーの6つのZOOMミーティングルームに分かれて座談会が行われ、参加者は、それぞれ興味のあるスピーカーのミーティングルームに入室して、座談会（25分×2回）に参加しました。座談会では、スピーカーから、これまでの経歴や失敗談、経験から学んだことや後輩たちに伝えたいことなどをお話いただき、社会人の先輩として、時間の許す限り参加者の質問に答え、一緒に考え、アドバイスしていただきました。

クロージングでは、各ゲストから感想が述べられ、参加者の皆さんの自分の将来に向けた真剣さや熱意を感じたこと、学生さんと接して初心を思い出すとともに自らの学びにもなったこと等のコメントがありました。

また、枚田センター長より、新たに4名の先輩スピーカーに対し、鹿児島大学名誉キャリアサポーターの委嘱状が授与されました。

最後に、富永茂人同窓会連合会会長より挨拶があり、学生の皆さんには、鹿児島大学で経験したことを活かして、社会でやりたいこと・やれることを頑張ることを、自分の力を磨いていずれば後輩にアドバイスする立場になって欲しいこと、同窓会としても皆さんを心から応援していること等が述べられ、本セミナーを締めくくりました。



鹿児島大学同窓会連合会事務局並びに各学部同窓会の連絡先

鹿児島大学同窓会連合会事務局

〒890-8580
鹿児島市郡元1-21-24
鹿児島大学総務部総務課基金・渉外係
TEL 099-285-3101 FAX 099-285-7034
e-mail kikin-sg@kuas.kagoshima-u.ac.jp

鹿児島大学歯学部同窓会

〒890-8544
鹿児島市桜ヶ丘8丁目35-1
鹿児島大学歯学部内
鹿児島大学歯学部同窓会事務局
TEL・FAX 099-264-1600
e-mail kashidousou@po2.synapes.ne.jp

鹿児島大学法文学部同窓会

〒890-0065
鹿児島市郡元1-21-30
鹿児島大学法文学部同窓会事務局
TEL 099-250-3211 FAX 099-285-3573
e-mail dousoukai@leh.kagoshima-u.ac.jp

鹿児島大学工学部同窓会

〒890-0065
鹿児島市郡元1-21-40
鹿児島大学工学部同窓会事務局
TEL・FAX 099-285-3494
e-mail kadai.eng.dousoukai@gmail.com

鹿児島大学教育学部同窓会

〒890-0065
鹿児島市郡元1-20-6
鹿児島大学教育学部事務局内
TEL・FAX 099-285-7718
e-mail dousou@edu.kagoshima-u.ac.jp

鹿児島大学農学部あらた同窓会

〒890-0065
鹿児島市郡元1-21-24
鹿児島大学農学部あらた同窓会事務局
TEL・FAX 099-285-8537
e-mail aratakai@mc2.seikyoku.ne.jp

鹿児島大学理学部同窓会南明会

〒890-0065
鹿児島市郡元1-21-35
鹿児島大学理学部同窓会事務局
TEL 099-285-8925
e-mail dosokai@sci.kagoshima-u.ac.jp

鹿児島大学水産学部同窓会魚水会

〒890-0056
鹿児島市下荒田4-50-20
鹿児島大学水産学部同窓会魚水会事務局
TEL・FAX 099-286-4080
e-mail gyosui@fish.kagoshima-u.ac.jp

鹿児島大学医学部同窓会

〒890-0075
鹿児島市桜ヶ丘8-35-1
鹿児島大学医学部医学科同窓会鶴陵会事務局
TEL 099-275-6881 FAX 099-265-9784
e-mail kakuryo@m.kufm.kagoshima-u.ac.jp

鹿児島大学共同獣医学部紫友同窓会

〒890-0065
鹿児島市郡元1-21-24
鹿児島大学共同獣医学部紫友同窓会事務局
TEL・FAX 099-285-3538/8711 (FAX 兼用)
e-mail k2088185@kadai.jp

鹿児島大学 同窓会連合会

〒890-8580 鹿児島市郡元1-21-24
鹿児島大学総務部総務課基金・渉外係
TEL 099-285-3101 FAX 099-285-7034
e-mail kikin-sg@kuas.kagoshima-u.ac.jp

印刷 株式会社鹿児島新生社印刷
〒891-0132 鹿児島市七ツ島1-3-21
TEL 099-261-0111 FAX 099-261-3100
e-mail kagoshima@shinsei-p.co.jp

